

(公印省略)

27 農林試第 3067 号
平成 27 年 11 月 20 日

各関係機関団体の長 }
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成 27 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号について

このことについて、本県でナシ園近隣に設置したフェロモントラップでヒメボクトウの発生を確認しましたので、病虫害発生予察特殊報第 2 号を発表し、送付します。

特殊報第 2 号

- 1 病虫害名 ヒメボクトウ
- 2 学名 *Cossus insularis* (Staudinger)
- 3 対象作物 ナシ
- 4 発生の経過と概要

平成 27 年 7 月下旬、県内のナシ栽培園近隣に設置したフェロモントラップにチョウ目の成虫が 9 頭誘殺された (写真 1)。農林水産省門司植物防疫所にこの成虫の同定を依頼したところ、本県未発生のヒメボクトウと同定された。なお、フェロモントラップ付近のナシ園で、本虫による被害は確認されていない。

- 5 本種の形態及び特徴等

- 1) 形態

成虫の開張は 35~60mm で、灰褐色の前翅には黒い波状の線が複数見られ、ほぼ全身が鱗粉で覆われる (写真 1)。

- 2) 分布

本州 (主に関東から東北地方)、四国、九州、対馬。国外では、ロシア南東部に分布する。

- 3) 生態

成虫の出現時期は、主に 6 月下旬から 8 月頃で、7 月にピークになる。

卵は寄主植物の粗皮の隙間等に卵塊で産み付けられ、孵化した幼虫は枝や幹に穿入し樹体内部に生息して蛹になる。蛹は、食入した入口まで移動して羽化し、その抜け殻は半身を乗り出した格好で残される。幼虫から蛹になるまでに2～3年間の期間を要すると考えられている。

幼虫は、被害樹の穿入口から木屑と虫糞が混ざったフラスを排出する。幼虫は樹木内を集団で摂食するため、樹幹の衰弱や枯死の原因となり、生産性が著しく低下する。

なお、チョウ目害虫を対象に慣行防除しているほ場での発生は、ほとんどないと思われる。

4) 寄主植物及び被害

本種の寄主植物は、これまでポプラやヤナギ等の樹木とされてきた。しかし平成17年以降、ニホンナシやリンゴ等の果樹における被害が関東から東北にかけて報告され、昨年、佐賀県でもナシ園での発生が確認された。

6 防除対策

1) 粗皮削りなど耕種的防除を行う。

①被害部位は翌年以降の発生源となるため、見つけ次第被害部位を切除しほ場外へ持ち出して適切に処分する。

②樹皮の隙間に産卵するため、粗皮削りを行い産卵を防止する。

2) 登録農薬で幼虫期の防除を行う。



写真1 フェロモントラップに誘引されたヒメボクトウ成虫